多摩アマビ会報

発行２０１２年7月28日　第１０６号
NHK 多摩アマチュアビデオクラブ
電話０４２－３６１－５６８４

公開セミナー『ファイルベース時代の機材　最新情報』

今年の公開セミナーは 6 月 23 日(土)午後１時 30 分から立川センタービル 12 階の NHK 西東京営業センター会議室で、「ファイルベース時代の機材最新情報」と題して、浜谷修三氏による講演で行われました。

例年通り、多摩地域のビデオクラブに PR した結果、10 クラブから 37 名が参加し、当クラブ会員 21 名と合せて 58 名の大盛況となりました。セミナーは定刻に渡辺代表幹事の開会挨拶と浜谷講師の紹介で始まり、早速、浜谷氏の講演に入りました。

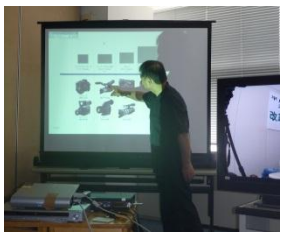
ファイルベースとは？：

ファイルベースが始まったのは 2006 年以降なので、まだほんの 5、6 年のことだ。記録媒体としてメモリー、ハードディスク、DVD の 3 種類で始まったが、現状はほとんどが SD カード、CF カードなどのメモリーカードが主体となってきた。このように、ファイルベースとはテープ以外のメモリー、HDD などに映像を記録し、その映像ファイルをパソコンで編集する撮影から編集までのシステムを言う。

カメラ機材最新情報：

民生用ビデオカメラは、HDV テープを使用する型は店頭から姿が消え、カードなどに記録する AVCHD カメラがメインになっている。大容量の記録用メモリーは、高速読み込み＆書き込み、大容量化、低価格が同時に進んでいる。NHK の取材用カメラもメモリーを使用するファイルベースにここ数年で移行し、撮影～編集～送出までのシステムががらりと変わる。

DV テープを使うカメラは業務用以外には市販されておらず、やがて市場から消える。テープとファイルベースを比較した場合、現状ではテープのメリットはほとんど無く、ファイルベースは時代の流れ、とも言える。



大容量メモリーでは最高画質で数時間撮れるし、価格も 32GB(ギガバイト)でも数千円だ(SDHC の場合)。カメラもテープを回す回転メカが無いので故障が少なく、電力消費量が圧倒的に低くなる。また、テープの傷とかによるメカのトラブルによるアクシデントが無いものの、非常に小さいので紛失しやすくなったり、静電気などのトラブル、はたまた誤ってフォーマットすることも起こりうる。さらに、テープと違ってアーカイブが残らないのでデータの保存について考える必要がある。

なお、これまでの DV、HDV テープは劣化しやすい上に保存が難しいので、映像は早めに BD、DVD などのファイル保存をすることが大事だ。

ファイルベース時代の撮影と編集：

ビデオは映像と音から成る。現場の音を生かしながら、核心をつくインタビューを行う。インタビューの音はカメラマイクでは無理で、インタビュー用マイクあるいはガンマイクを使用すること。音は音源に向って ON！が原則である。BGM を最初から載せるのではなく、なるべく現場音を生かすべきだ。出来の悪い BGM

は作家のセンスの無さがばれてしまう。まず、現場音ありき！

撮影の基本：3 ショット撮影法で、ロング、ミドル、アップで撮り、画角（サイズ）を変えてつなぐ。構成を考えた上で撮影に臨む。必要なら現場で考えをすぐ変えて、撮影する。登場人物をしっかり撮れる場所を考える。複数人で撮る場合、事前に書いた物を配って、共通理解で撮影する。

PC への取り込み：Edius 6 の場合、ソースブラウザで一括処理が便利。カメラメーカーからも取り込み用のユーティリティソフトが出ているほか、ファイル操作ソフトを使い、ファイル検索を掛けて一括処理するやり方もある。

NHK をはじめとして放送局では主に Panasonic、Sony などのカメラが使われ、編集には、さくら映機（旧カノープス系）などのノンリニアマシンが使われている。また、現場から局への映像の伝達方法も車、バイクを使ったフィルムの時代→ENG（FPU 伝送）→SNG（映像素材を通信衛星を使って伝送）→DNG（ファイルベース映像をインターネット伝送）と進化している。

撮影後の注意点：撮影後に SD カードを落としたり、静電気でバチッとデータ全部を無くしてしまう悲惨な事故に遭わないよう、注意する。→撮影したら必ずパソコンに転送する。同時にその日のうちに HDD に保存すること。バックアップにバックアップを！データ伝送速度が速い USB3.0 を使って外付け HDD に保存するのがベストだ。

BGM について：昔の写真を何枚も使う時などは、写っている時代の歌、音楽を使う。現場音のあとに BGM を静かに入れる。曲の終りをシーンに合わせて入れる。BGM に困ったら、クラシックの CD が使える。とくにモーツアルトが良い。おじさんのセンスで選ばず、若い人たちや、登場人物の要望を聞いたりして選曲する。著作権には配慮すること。

マルチカメラ撮影：

ファイルベースではマルチカメラが基本。広角の小型カメラ（4～5 万円）を据え付ける。下見をしてカメラの配置を考える（カメラ割り）。ロング、左右、アップのカメラを分担する。とくにロング・ミドルが重要。

舞台撮影では白トビに注意する。少し暗めにセットする。ゼブラマークを出して、白トビを防ぐ。コンサートなどでは 3 点釣りマイクから音を貰う（ライン音声、0 dB～＋4 dB ぐらい）→ミキサーに入れて音を整えたあと、カメラに入れる。複数のカメラで撮ったような作品づくりは、ファイルベースだから編集も簡単だ。

自作 PC と編集ソフト：

新宿で行なった講座では、自作パソコンを CPU は Core i7、64 ビットで、4 コアを 6 コアに増強した。USB も 3.0 を使えば外付け HDD でよく動く（2.0 では役に立たない）。

Edius 6 での編集デモンストレーションで、音のレベル設定を音割れさせないため、0 dB を超えないよう－12～－6dB をピークにし、最大音量でも赤にならないようにセットすること。くれぐれもデジタル音声は入力オーバーは厳禁。

聴講者が使用している編集ソフトを挙手で調べたら、アドビプレミアよりエディウスの方が倍くらい多かった。10 年近く前は、その逆だった。

以上のように濃密な最新情報が講師の熱弁で 5 時まで繰り広げられ、熱心に聴き入る聴衆の熱気で会場は冷房も効きが悪くなるほどであった。また、「丁度マルチカメラをやっているので非常に参考になった。」「これからの AVCHD カメラについて、目からウロコの良い勉強になった。」などの声が聞かれ、大成功であった。

8 月例会のお知らせ

8 月 25 日(土)13:30～17:00

通常の例会で自主作品の発表が主体です。アドバイザーの助言を期待しつつ、多数の発表をお願いします。